

米国経済・株式市場情報

ナスダック総合指数の戻りが顕著

ナスダック総合指数は前年末を上回る水準まで上昇

- ▶ 市場でGAFAM（ガーファム）と呼ばれる巨大IT企業5社の株価上昇等を背景に、ナスダック総合指数が回復傾向を強めつつある。
- ▶ コロナ禍でも業績拡大が期待されるGAFAMを中心に、ナスダック総合指数は上昇基調を続けるとの見方がある一方、予想P E R（株価収益率）水準等をもとに過熱感を指摘する向きもある。

(1) ナスダック総合指数の戻りが顕著

- 米国政府による3兆ドル（約320兆円）規模の経済対策や、F R B（米連邦準備制度理事会）の金融緩和策等を背景に、米国株式主要3指数（NYダウ、S & P 500指数、ナスダック総合指数）が回復傾向をたどっています。主要3指数の中でも戻りが顕著なのが、ナスダック総合指数です。同指数は5月19日時点では前年末を上回る水準まで上昇しており、米国内で新型コロナウイルスの感染が拡大する前の2020年2月につけた史上最高値に迫る勢いを示しています（図表1）。

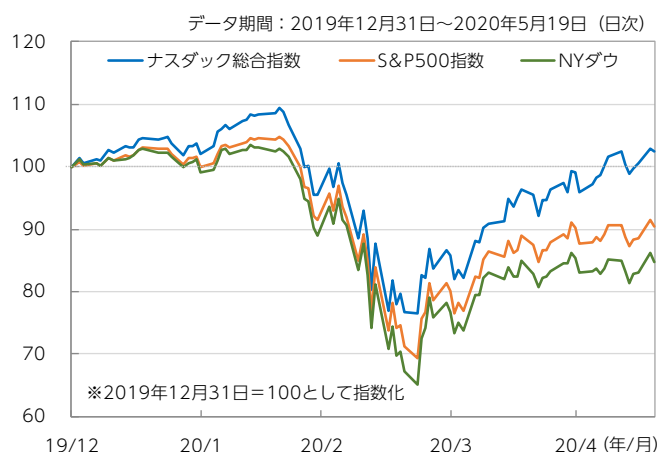
(2) GAFAMがけん引

- ナスダック総合指数の戻りをけん引しているのが、市場でGAFAM（ガーファム）と呼ばれる巨大IT企業5社（グーグル（持株会社アルファベット）、アップル、フェイスブック、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）の株価です。同5社の5月19日時点の時価総額は約5.5兆ドル（約590兆円）と同日の東証一部（約2,200銘柄）の約570兆円を上回っています。①高速大容量通信や自動車の自動運転等、次世代技術での投資余力が大きいとの評価、②新型コロナウイルスの感染拡大に伴うテレワークやインターネット通販の普及・拡大等でGAFAMの収益機会が増すとの見方等が支援材料になっているものと思われます。

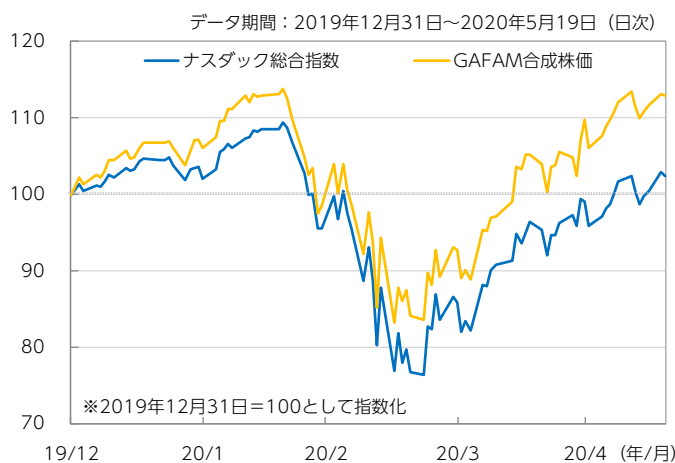
(3) ナスダック総合指数の見通し

- コロナ禍でも業績の拡大が期待されるGAFAM銘柄を中心に、ナスダック総合指数は上昇基調を続けるとの見方がある一方、足元の予想P E Rは大きく上昇しており（図表3）、過熱感を指摘する向きもあります。米中関係の悪化懸念が強まる等の悪材料が出た場合には、利益確定を急ぐ動き等により軟調な展開になることも想定されます。

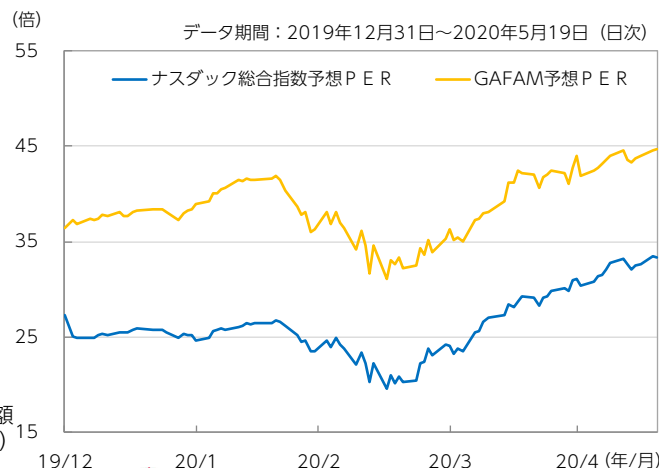
図表1：米国株式主要3指数推移



図表2：ナスダック総合指数とGAFAM合成株価推移



図表3：ナスダック総合指数とGAFAM予想P E R推移



(注1) GAFAM合成株価や予想P E Rは各銘柄日々終値及び予想P E Rの時価総額加重平均（各銘柄の時価総額構成比：2019年12月31日時点の数値を使用）

(注2) 当レポートは個別銘柄等の売買を推奨するものではありません。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>